

2014年8月

今月のトピック

キングスカイフロント夏のイベント 2014 8月11日、殿町国際戦略拠点で、「キングスカイフロント 夏の科学イベント」が開催された。この地に集積する（予定も含む）ライフサイエンス分野の企業、研究機関による科学実験や、研究の展示などが行われた。国立衛研からは変異遺伝部が「DNAを見てみよう！」の科学実験を行い、小学生やその父兄が200人以上参加した。（変異遺伝部）

1. 誌上発表（原著論文）

- (薬品部) ○ Un, K., Sakai-Kato, K., Goda, Y.
Intracellular trafficking mechanism of cationic phospholipids including cationic liposomes in HeLa cells
 (カチオン性脂質を含むカチオン性リポソームのHeLa細胞における細胞内動態メカニズムについて)
Pharmazie **69**, 525-531, 2014
- Izutsu, K., Yomota, C., Okuda, H., Kawanishi, T., Yamaki, T.*¹
 Ohdate, R.*¹ Zhaokun Yu,*¹ Yonemochi, E.*^{1,2}, Terada K.*¹
 *¹東邦大学薬学部 *²星薬科大学
Effects of Formulation and Process Factors on the Crystal Structure of Freeze-dried Myo-Inositol (Myo-イノシトール凍結乾燥固体の結晶多形に対する製剤処方と工程要因)
Journal of Pharmaceutical Sciences, **103**, 2347-2355, 2014
- (生薬部) ○ 堀井周文*, 小此木明*, 大窪敏樹*, 鎌倉浩之, 合田幸広
 *クラシエ製薬(株)漢方研究所
小青竜湯エキス製剤および湯剤の同等性に関する研究 (I)
 生薬学雑誌, **68**(2), 65-69, 2014
- 神本敏弘*¹, 余村かおり*², 菊地祐一*², 平倉一弘*², 牧野文昌*², 橋本和則*², 西村浩昭*², 碓井公利*², 袴塚高志, 合田幸広, 川原信夫*³, 木内文之*¹
 *¹慶応義塾大学大学院薬学研究科, *²(株)ツムラ, *³(独)医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター
TLCによる炙甘草と甘草の化学的識別
 生薬学雑誌, **68**(2), 70-77, 2014
- 若菜大悟*¹, 丸山卓郎, 在間一将, 武田尚, 杉村康司*², 安食菜穂子*², 飯田修*², 川原信夫*², 合田幸広, 細江智夫*¹
 *¹星薬科大学, *²(独)医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター
¹H-NMR-メタボロミクスによるショウガ抽出エキスの規格化
 日本食品化学学会誌, **21**(2), 135-138, 2014
- Suzuki, M.*¹, Miyahara, T.*¹, Tokumoto, H., Hakamatsuka, T., Goda, Y., Ozeki, Y.*¹, Sasaki, N.*¹
 *東京農工大学工学部
Transposon-mediated mutation of CYP76AD3 affects betalain synthesis and produces variegated flowers in four o'clock (*Mirabilis jalapa*) (オシロイバナではトランスポゾンによるCYP76AD3遺伝子の変異がベタレイン色素合成に影響をあたえることで斑入花が生じる)
Journal of Plant Physiology, **171**(17), 1586-1590, 2014
- (遺伝子細胞医薬部) ○ Shimo T*¹, Tachibana K*¹, Saito K*¹, Yoshida T, Tomita

E*1, Waki R*1, Yamamoto T*1, Doi T*1, Inoue T, Kawakami J*2, Obika S*1.

*1 大阪大学、*2 甲南大学

Design and evaluation of locked nucleic acid-based splice-switching oligonucleotides *in vitro*. (LNA を用いたスプライシング制御型アンチセンスのデザインと細胞レベルでの評価)

Nucleic Acids Res., **42**(12), 8174-887, 2014.

- Kuroda T, Yasuda S, Sato Y.

***In vitro* detection of residual undifferentiated cells in retinal pigment epithelial cells derived from human induced pluripotent stem cells.** (ヒト iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞における残存未分化細胞の *in vitro* 検出法)

Methods Mol Biol., **1210**, 183-192, 2014.

- (食品部) ○ 植草義徳, 鍋師裕美, 堤智昭, 蜂須賀暁子, 松田りえ子, 手島玲子

トータルダイエツト試料による食品を介した放射性物質の摂取量の推定

食品衛生学雑誌, **55** (4), 177-182, 2014

- Knipping K^{*1,2}, Simons PJ^{*3}, Buelens-Sleumer LS^{*1}, Cox L^{*3}, den Hartog M^{*3}, de Jong N^{*3}, Teshima R, Garssen J^{*1,2}, Boon L^{*3}, Knippels Leon MJ^{*1,2}

^{*1}Nutrica Research BV,Utrecht, ^{*2}Utrecht Institute for Pharmaceutical Sciences,Utrecht University, ^{*3}Bioceros Holding BV, Utrecht

Development of β -lactogloblin-specific chimeric human IgE κ monoclonal antibodies for *in vitro* safety assessment of whey hydrolysates. (β -ラクトグロブリン特異的人 IgE κ 鎖結合マウス単クローンキメラ抗体の作成並びに乳清加水分解物の試験管内での安全性評価手法の開発)

PLOS ONE **9**(8), e106025, 2014

- (医薬安全科学部) ○ Hanatani T, Sai K, Tohkin M^{*1}, Segawa K, Antoku Y^{*2}, Nakashima N^{*2}, Yokoi H^{*3}, Ohe K^{*4}, Kimura M^{*5}, Hori K^{*5}, Kawakami J^{*5}, Saito Y.

^{*1}名古屋市立大学, ^{*2}九州大学, ^{*3}香川大学, ^{*4}東京大学, ^{*5}浜松医科大学

Evaluation of two Japanese regulatory actions using medical information databases: a 'Dear Doctor' letter to restrict oseltamivir use in teenagers, and label change caution against co-administration of omeprazole with clopidogrel. (医療情報データベースを用いた行政施策の効果に関する評価: オセルタミビルおよびクロピドグレルの事例)

J Clin Pharm Ther. **39**, 361-7 (2014)

- Takahashi H^{*1}, Sai K, Saito Y, Kaniwa N, Matsumura Y^{*2}, Hamaguchi T^{*2}, Shimada Y^{*2}, Ohtsu A^{*2}, Yoshino T^{*2}, Doi T^{*2}, Okuda H, Ichinohe R^{*2}, Takahashi A^{*3}, Doi A^{*2}, Odaka Y^{*2}, Okuyama M^{*2}, Saijo N^{*2}, Sawada J, Sakamoto H^{*2}, Yoshida T^{*2}.

^{*1}千葉大学, ^{*2}国立がん研究センター, ^{*3}中部大学

Application of a combination of a knowledge-based algorithm and 2-stage screening to hypothesis-free genomic data on irinotecan-treated patients for identification of a candidate single nucleotide polymorphism related to an adverse effect. (イリノテカン投与症例ゲノムデータを用いた有害事象と関連する遺伝子多型の探索-知識ベースアル

ゴリズム及び2段階スクリーニング法の適用)

PLoS One. **15**, e105160 (2014)

- (薬理部) ○ Yamada, S., Kotake, Y.^{*1}, Demizu, Y., Kurihara, Y., Sekino, Y., Kanda, Y.
^{*1}広島大学

NAD-dependent isocitrate dehydrogenase as a novel target of tributyltin in human embryonic carcinoma cells. (ヒト胎児性癌細胞におけるトリブチルスズ新規ターゲット分子 NAD-dependent isocitrate dehydrogenase の同定)

Sci. Rep. **4**:5952 (2014)

- (総合評価室) ○ Ema, M.^{*1}, Endoh, K.^{*2}, Fukushima, R.^{*3}, Fujii, S.^{*4}, Hara, H.^{*5}, Hirata-Koizumi, M., Hirose, A., Hojo, H.^{*6}, Horimoto, M.^{*7}, Hoshino, N.^{*8}, Hosokawa, Y.^{*9}, Imai, Y.^{*10}, Inada, H.^{*11}, Inawaka, K.^{*12}, Itoh, K.^{*13}, Katsumata, Y.^{*14}, Izumi, H.^{*8}, Kato, H.^{*15}, Maeda, M.^{*16}, Matsumoto, K.^{*17}, Matsuo, S.^{*18}, Matsuoka, T.^{*19}, Matsuura, I.^{*8}, Mineshima, H.^{*20}, Miwa, Y.^{*2}, Nakano, N.^{*3}, Naya, M.^{*1}, Noyori, H.^{*18}, Ohta, T.^{*8}, Oku, H.^{*10}, Ono, A., Shimizu, T.^{*5}, Shimomura, K.^{*19}, Takakura, I.^{*21}, Tanaka, R.^{*13}, Tateishi, T.^{*15}, Tominaga, Y.^{*22}, Uesugi, T.^{*22}, Urakawa, C.^{*6}, Yabe, K.^{*4}, Yamashita, A.^{*11}, Yamauchi, T.^{*17}, Yokoi, R.^{*21}

^{*1} (独) 産業技術総合研究所, ^{*2} (株) 日本バイオリサーチセンター, ^{*3} 塩野義製薬株式会社, ^{*4} (株) 化合物安全性研究所, ^{*5} (株) イナリサーチ, ^{*6} 一般財団法人残留農薬研究所, ^{*7} 千葉科学大学, ^{*8} 三菱化学メディエンス株式会社, ^{*9} 住友化学株式会社, ^{*10} 小野薬品工業株式会社, ^{*11} 大日本住友製薬株式会社, ^{*12} 住友化学株式会社, ^{*13} (財) 食品農医薬品安全性評価センター, ^{*14} (株) ボゾリサーチセンター, ^{*15} (株) 新日本科学, ^{*16} エーザイ株式会社, ^{*17} 武田薬品工業株式会社, ^{*18} アステラス製薬株式会社, ^{*19} 第一三共株式会社, ^{*20} (株) サンプラネット, ^{*21} キッセイ薬品工業株式会社, ^{*22} 大塚製薬株式会社

Historical control data on developmental toxicity studies in rodents (げっ歯類を用いた発生毒性試験に関する背景データ)

Congenit. Anom. (Kyoto). **54**(3), 150-161 (2014)

2. 誌上発表 (総説・解説等)

- (薬品部) ○ 柴田 寛子、伊豆津 健一
直腸投与製剤の種類と用途
 薬局, **65**(9), 2014
- 坂本知昭
OMCL 認定及び PIC/S 加盟に向けた国立衛研の取り組み
 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, **45**(8), 638-644 (2014)
- (生活衛生化学部) ○ 河上強志, 伊佐間和郎, 五十嵐良明
イソチアゾリノン系防腐剤による接触皮膚炎 一家庭用品に起因する症例を中心として
J. Environ. Dermatol. Cutan. Allergol., **8**, 147-61 (2014)
- (総合評価室) ○ 松本真理子、宮地繁樹^{*1}、菅谷芳雄^{*2}、広瀬明彦
^{*1}: (一財) 化学物質評価研究機構安全性評価技術研究所,
^{*2}: (独) 国立環境研究所環境リスク研究センター
OECD 化学物質共同評価プログラム: 第5回化学物質共同評価会議概要
 化学生物総合管理, **10** (1), 37-45
- 高橋美加、松本真理子、宮地繁樹^{*1}、菅野誠一郎^{*2}、菅谷芳

雄^{*3}、長谷川隆一、平田睦子、小野 敦、鎌田栄一、広瀬明彦

^{*1}: (一財) 化学物質評価研究機構安全性評価技術研究所,
^{*2}: (独) 労働安全衛生総合研究所, ^{*3}: (独) 国立環境研究所環境リスク研究センター

OECD 化学物質対策の動向 (第 24 報) – 第 3 回 OECD 化学物質共同評価会議 (2012 年ルツェルン)

化学生物総合管理, **10** (1), 25-36

- 高橋美加、松本真理子、宮地繁樹^{*1}、菅野誠一郎^{*2}、菅谷芳雄^{*3}、長谷川隆一、小林克己、平田睦子、小野 敦、鎌田栄一、広瀬明彦

^{*1}: (一財) 化学物質評価研究機構安全性評価技術研究所,
^{*2}: (独) 労働安全衛生総合研究所, ^{*3}: (独) 国立環境研究所環境リスク研究センター

OECD 化学物質対策の動向 (第 25 報) – 第 4、5 回 OECD 化学物質共同評価会議 (2013 年パリ、ワシントン DC)

化学生物総合管理, **10** (1), 46-57

3. 単行本

- (薬品部) ○ 小出 達夫
ミスのない難局打開の“造粒技術”～トラブル事例と解決策による造粒の技能伝承～
サイエンス & テクノロジー(株), 東京 (2014), pp.163-174
第 6 章 造粒物の評価・分析の章で、造粒物の評価・分析技術について本書の一部を著述した。

4. 学会・講演等

- (薬品部) ○ 香取典子
日本における規制バイオアナリシスの進展と研究班の役割
第 26 回バイオメディカル分析化学シンポジウム (BMAS2014)、東京・品川 (2014.08)
- 香取典子
薬物動態試験における分析法バリデーションガイドラインと日本における規制バイオアナリシスについて
第 41 回日本毒性学会学術年会、兵庫県神戸市 (2014.07)
- Koide, T., Katori, N., Goda, Y.
Evaluation of Distribution of Ingredients in Pharmaceutical Solid Dosage Forms using Time of Flight Secondary Ion Mass Spectrometry (飛行時間型 2 次イオン質量分析法を用いた製剤中の含有成分分布評価)
20th International Mass Spectrometry Conference (2014.8) Geneva CH
- Sakamoto, T.
Terahertz spectroscopy and imaging in pharmaceutical sciences (薬学におけるテラヘルツ分光及イメージング技術)
The International Symposium on Frontier of Terahertz Science, (Joint Conference of The Spectroscopical Society of Japan and the Japan Society of Applied Physics), Onnason, Okinawa (2014.8)
- (生物薬品部) ○ 大海雄介^{*1}、伊勢 渉^{*2}、高橋聖宜^{*3}、原園 景、川崎ナナ、黒崎知博^{*2}、古川鋼一^{*1}
^{*1}名古屋大学大学院, ^{*2}大阪大学免疫学フロンティア研究

- センター, *³国立感染症研究所
関節リウマチにおける抗原特異的 IgG 糖鎖の機能解析
 第 33 回日本糖質学会年会 (2014.8) (愛知県・名古屋)
- 西岡宗一郎*¹, 小林 功*², 原園 景, 久保勇樹*³, 真板宣夫*⁴, 池戸駿介*¹, 東 哲也*¹, 辻 大輔*¹, 瀬筒秀樹*², 町井博明*², 石井明子, 川崎ナナ, 伊藤孝司*¹
 *¹徳島大学大学院, *²農業生物資源研究所, *³増田化学工業(株), *⁴徳島大学疾患酵素研究センター
- 組換えカイコ絹糸腺由来ヒトカテプシン A の分子特性とエンドグリコシダーゼによる糖鎖改変**
 第 33 回日本糖質学会年会 (2014.8) (愛知県・名古屋)
- 日向須美子*¹, 日向昌司, 天倉吉章*², 合田幸広, 花輪壽彦*¹
 *¹北里大・東洋医学総合研究所, *²松山大・薬学部
- Herbacetin の TrkA リン酸化阻害を介した神経突起伸張抑制作用及び疼痛抑制効果**
 第 31 回和漢医薬学会学術大会 (2014.8) (千葉県・千葉)
- 橋井則貴
- 高分子 LC/MS バイオアナリシスの現状と課題について**
 第 27 回バイオメディカル分析科学シンポジウム
 帝京大学(2014.8)(東京都・板橋)
- (生薬部) ○ 丸山卓郎
- 国立衛研・生薬部が扱った最近のトピックス**
 生薬若手懇話会第 12 回勉強会
 長崎県佐世保市, 2014 年 8 月
- (遺伝子細胞医薬部) ○ 佐々木澄美, 吉田徳幸, 内田恵理子, 佐藤陽治, 井上貴雄
- siRNA の細胞内取り込み機構の解析**
 第 6 回日本 RNAi 研究会 (2014.8) (広島県広島)
- Uchida, E.
Current situation of advanced therapy regulation in the world (先端医薬品規制の国際動向)
 第 20 回日本遺伝子治療学会学術集会(2014.8) (東京都・港区)
- Uchida, E., Igarashi, Y.*¹, Sato, Y., Onodera, M.*¹, Yamaguchi, T.
 *国立成育医療研究センター
Study on the biosafety of ex vivo transduced cells with retroviral vectors and Cartagena protocol domestic law (レトロウイルスベクターによる ex vivo 遺伝子導入細胞のバイオセーフティーとカルタヘナ法適用に関する研究)
 第 20 回日本遺伝子治療学会学術集会(2014.8) (東京都港区)
- Igarashi, Y.*¹, Uchida, E., Onodera, M.*¹
 *国立成育医療研究センター
Quality control for the supernatants of retroviral vectors using a next-generation DNA sequencer(次世代シーケンサーを用いたレトロウイルスベクターの品質評価)
 第 20 回日本遺伝子治療学会学術集会(2014.8) (東京都港区)
- (生活衛生化学部) ○ Uchino, T., Miyazaki, H.*¹, Yamashita, K.*¹, Kojima, H., Oshikata-Miyazaki, A.*², Takezawa, T.*², Shimizu, K., Akiyama, T., Ikarashi, Y.
 *¹Daicel Corporation, *²National Institute of Agrobiological Sciences

Development of skin sensitization test method using THP-1 cells cultured on a collagen vitrigel membrane chamber for oily materials. (コラーゲンビトリゲル膜チャンバーに播種された THP-1 細胞を用いた非水溶性物質のための皮膚感作性試験法の開発)

9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech Republic)

- (食品添加物部) ○ 穂山 浩
リスク管理における食品添加物の分析法について
第 27 回バイオメディカル分析科学シンポジウム
(2014.8)(東京・品川)
- (機能生化学部) ○ Naito M.
SNIPER: Inducing protein degradation via recruitment to IAP (SNIPER:IAP へのリクルートによる標的タンパク質分解の誘導)
248th ACS National Meeting and Exposition (2014.8, San Francisco, CA, USA)
- (安全情報部) ○ K. Kubota, H. Amanuma, H. Yanagisawa^{*1}, M. Shimojima^{*2}, T. Yamashita^{*3}, Y. Sakurai^{*4}, M. Komatsu^{*4}, F. Kasuga^{*1} (株) ミロクメディカルラボラトリー, ^{*2} (株) ビー・エム・エル, ^{*3} LSI メディエンス (株), ^{*4} 宮城県医師会健康センター
Estimating the burden of foodborne illness in Japan using clinical laboratory data for whole of Japan, 2006-2011 (臨床検査機関データからの日本全体の食品由来感染症被害実態の推定, 2006-2011)
International Association for Food Protection, 2014 Annual Meeting (2014.8) (Indianapolis, IN, U.S.)
- (毒性部) ○ Yuhji Taquahashi, Atsuya Takagi, Masaki Tsuji, Koichi Morita, Yukio Ogawa, Jun Kanno
Nanotoxicology - its chronic aspects: Taquann-Direct Injection whole body inhalation system. (ナノ毒性学-その慢性的側面から: 新規分散法 (Taquann 法) を用いた直噴式吸入全身暴露)
国際材料研究学会連合 - アジア国際会議 2014 (IUMRS-ICA2014), 2014 年 8 月, 福岡県福岡市
- Jun Kanno, Ken-ichi Aisaki, Satoshi Kitajima
Percellome toxicogenomics project as the 3R-toxicology and the foundation of in vitro- and in silico-toxicology (3R 毒性学及び試験管内やコンピュータ利用による毒性学の基礎としてのパーセルームトキシコゲノミクスプロジェクト)
第 9 回国際代替法学会 (WC9), 2014 年 8 月, チェコ・プラハ
- (薬理部) ○ Kojima, H.
Activities of JSAAE (日本動物実験代替法学会の活動)
The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)
- Kojima, H., Nishikawa, A.
The Japanese Center for the Validation of Alternative Methods (JaCVAM): Update (日本動物実験代替法評価センター近況)
The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)
- Kojima, H., Oshimura, M^{*1}, Imatanaka N^{*2}

^{*1}Tottori University ^{*2}Chemical Evaluation and Research Institute, Japan

Japanese project "ARCH-Tox" for the future chemicals management policy: research and development of *in vitro* and *in vivo* assays for internationally leading hazard assessment and test methods (将来の化学物質管理法のための日本プロジェクト ARCH-Tox: 国際的な有害性評価試験法としての *in vivo* および *in vitro* 研究および開発)

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)

- Kojima, H., Spielmann, H.^{*1}, Onoue, S.^{*2}

^{*1}Free University of Berlin ^{*2}University of Shizuoka

The ROS *in vitro* phototoxicity assay for ICH (ICH のための ROS *in vitro* 光毒性試験)

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)

- Kojima, H.

Regulatory science panel discussion Human-on-a-chip – Advancing regulatory science through innovation and world wide networking for alternative testing (ヒューマンオンチップについてのレギュラトリーサイエンスパネル討論 – 代替法の発達と国際ネットワークを通してのレギュラトリーサイエンスの発展)

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)

- Maruya, A.^{*1}, Aiba S.^{*2}, Kimura, Y.^{*2}, Watanabe, M.^{*3}, Suzuki, N.^{*4}, Saito, K.^{*4}, Nakajima, Y.^{*5}, Ohmiya, Y.^{*5}, Kojima, H., Tanaka, N.^{*3}

^{*1}Doshisha University ^{*2}Tohoku University ^{*3}Hatano Research Institute, Food and Drug Safety Center ^{*4}Environmental Health Science Laboratory, Sumitomo Chemical Co., Ltd. ^{*5}National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

Comparison of 3 criteria incorporating variation of index for toxicity of the interleukin 8 luciferase Luc assay (IL-8 Luc assay) (インターロイキン 8 ルシフェラーゼアッセイ (IL-8 Luc アッセイ) の毒性インデックスに関する 3 基準の比較)

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)

- Ikeda, H.^{*1}, Katoh, M.^{*2}, Omori, T.^{*3}, Yamashita, A.^{*3}, Endo, M.^{*3}, Shinoda, S.^{*4}, Hagiwara, S.^{*4}, Kasahara, T.^{*5}, Tahara, H.^{*5}, Nakahara, S.^{*6}, Akiyama, S.^{*6}, Yoshitake, Y.^{*7}, Kojima, H.

^{*1}Nihon Kolmar Co., Ltd. ^{*2}Japan Tissue Engineering Co., Ltd. ^{*3}Doshisha University ^{*4}Drug Safety Testing Center Co., Ltd. ^{*5}Fujifilm Corporation ^{*6}Mandom Corporation ^{*7}Oppen Cosmetics Co., Ltd.,

Additional joint research on eye irritation alternative method with human corneal model; LabCyte CORNEA-MODEL24 (ヒト角膜モデルを用いた眼刺激性試験代替法の共同研究)

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)

- Yamaguchi, H.^{*1,2}, Kojima, H., Takezawa T^{*1}

^{*1}National Institute of Agrobiological Sciences ^{*2}Kanto Chemical Co.,Inc.

Advantage of "Vitrigel-EIT (eye irritancy test) method": a brief eye irritation test utilizing changes of barrier function after exposing chemicals to a human corneal epithelium model as an indicator (Vitrigel-EIT (眼刺激性試験) の優位性: ヒト角膜モデルを指標とし, 化学物質曝露後のバリア機能の変化を利用した眼刺激性試験)

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)

- Ono A, Takeyoshi M^{*1}, Maeda Y^{*1}, Suzuki N^{*2}, Kojima N^{*3}, Takeuchi S^{*4}, Hong J.H^{*5}, Lee H.S^{*5}, Vinggaard A.M^{*6}, Odum J^{*7}, Laws S^{*8} and Kojima H

^{*1}Chemicals Assessment and Research Center, Chemicals Evaluation and Research Institute ^{*2}Environmental Health Science Laboratory, Sumitomo Chemical Co., Ltd ^{*3}Food Safety Group, Hokkaido Institute of Public Health ^{*4}Drug Safety Group, Hokkaido Institute of Public Health ^{*5}Food Safety Risk Assessment Division, Ministry of Food and Drug Safety ^{*6}Division of Toxicology and Risk Assessment, National Food Institute Technical University of Denmark ^{*7}Toxicology, Regulatory Science Associates ^{*8}National Health and Environmental Effects Research Laboratory, U.S. Environmental Protection Agency

An inter-laboratory validation study of an androgen receptor stably transfected transcriptional activation (AR STTA) assay for a new OECD test guideline (新しい OECD テストガイドラインのための導入したアンドロジェンレセプター転写活性化試験(AR STTA)の施設間バリデーション試験)

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)

- Kimura, Y.^{*1}, Watanabe, M.^{*2}, Suzuki, N.^{*3}, Saito, K.^{*3}, Nakajima, Y.^{*4}, Ohmiya, Y.^{*4}, Omori, T.^{*5}, Kojima, H., Tanaka, N.^{*6}, Aiba S^{*1}

^{*1}Tohoku University ^{*2}Hatano Research Institute, Food and Drug Safety Center ^{*3}Sumitomo Chemical Co., Ltd. ^{*4}National Institute of Advanced Industrial Science and Technology ^{*5}Doshisha University ^{*6}Organization for Tottori Industrial Promotion

An inter-laboratory validation study of IL-8 Luc assay using a stable THP-1-derived IL-8 reporter cell line, THP-G8 (IL-8 受容体を安定発現させた株細胞を用いた IL-8Luc アッセイの施設間バリデーション研究)

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)

- Narita, K.^{*}, Kojima, H., Itagaki, H.^{*}

^{*}Yokohama National university

Investigation of the use of THP-1 cells and IL-8 release to assess water-insoluble chemicals with the short time exposure test method (短時間曝露試験を用いた非水溶性物質を評価するための THP-1 細胞からの IL-8 放出の検討)

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)

- Uchino T, Miyazaki H^{*1}, Yamashita K^{*1}, Kojima H, Oshikata-Miyazaki A^{*2}, Takezawa T^{*2}, Shimizu K, Akiyama T and Ikarashi Y
^{*1}Central Research Center, Daicel Corporation ^{*2}Division of Animal Sciences, National Institute of Agrobiological Sciences
Development of skin sensitization test method using THP-1 cells cultured on a collagen vitrigel membrane chamber for oily materials (油溶性物質のためのコラーゲンビトリゲル膜上で THP-1 細胞を培養した皮膚感作性試験の開発)
 The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)
- Watanabe, M.^{*1}, Sozu, T.^{*2}, Niitsma, T.^{*1}, Yamashita, K.^{*3}, Fukuda, T.^{*4}, Yamaguchi, N.^{*4}, Fujiwara, S.^{*4}, Yamaguchi, H.^{*5,6} Takezawa, T.^{*5}, Kojima, H.
^{*1}Hatano Research Institute, Food and Drug Safety Center ^{*2}Kyoto University ^{*3}Daicel Corporation ^{*4}BoZo Research Center Inc. ^{*5}National Institute of Agrobiological Sciences ^{*6}Kanto Chemical Co., Inc.
Pre-validation study of Vitrigel-EIT (Eye Irritancy Test) method (Vitrigel-EIT(眼刺激性試験)のプレバリデーション研究)
 The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)
- Coecke, S.^{*1}, Bernasconi, C.^{*1}, Cole, T.^{*1}, Liska, R.^{*1}, Andersson, T.B.^{*2}, Beken, S.^{*2}, Casey, W.^{*2}, Cunningham, M.^{*2}, De Smet, K.^{*2}, Ingelman-Sundberg, M.^{*2}, Kern, A.^{*2}, Paris, M.^{*2}, Pelkonen, O.^{*2}, Roggen, E.^{*2}, Strickland, J.^{*2}, Sunouchi, M., Vanhaecke, T.^{*2}, Mueller-Viera, U.^{*3}, Van Houdt, J.^{*3}, Morath, S.^{*3}, Mendoza, E.^{*3}, Wilk-Zasadna, I.^{*3}, Richert, L.^{*3}, Desbans, C.^{*3}, Ungell, A.-L.^{*3}
^{*1}EUR1 ECVAM/systems Toxicology Unit, European Commission Joint Research Centre ^{*2}Validation Management Group ^{*3}Participating Test Facility
Gaining insight into xenobiotic biotransformation: the CYP induction *in vitro* method (異物の生体内変換に関する洞察: *in vitro* CYP 誘導能試験)
 The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences, (2014.8) (Prague, Czech)
- (病理部) ○ Ogawa, K.
Estimation of daily aluminum intake in Japan and the result of rat 13-week toxicity study of aluminum potassium sulfate, major aluminum-related food additives in Japan (日本における1日アルミニウム摂取量推計および日本の主要アルミニウム関連食品添加物である硫酸アルミニウムカリウムのラットを用いた13週間毒性試験結果について)
 The 81st Annual Meeting of Korean Society of Food Science and Technology (2014.8)(Gwangju, Korea)
- (変異遺伝部) ○ 増村健一, 大杉直弘*, 豊田尚美, 能美健彦, 本間正充
 *日本エスエルシー(株)
***gpt delta* マウスを用いた加齢に伴い蓄積する遺伝子突然変異の解析**
 日本進化学会第16回大会(2014.8) (大阪府高槻市)
- 本間 正充
Use of QSAR Tools for Hazard Identification of Genotoxic

Impurities in Pharmaceuticals (医薬品中に含まれる遺伝毒性不純物の QSAR によるハザード評価)

9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)(プラハ, チェコ)

- (総合評価室) ○ A.Ono, M.Takeyoshi^{*1}, Y.Maeda^{*1}, N.Suzuki^{*2}, H.Kojima^{*3}, S.Takeuchi^{*3}, J.H.Hong^{*4}, H.S.Lee^{*4}, A.M.Vinggaard^{*5}, J.Odum^{*6}, S.Laws^{*7}, H.Kojima

*1 Chemicals Evaluation and Research Institute *2 Sumitomo Chemical Co., Ltd *3 Hokkaido Institute of Public Health

*4 Ministry of Food and Drug Safety *5 National Food Institute Technical University of Denmark *6 Regulatory Science Associates *7 U.S. Environmental Protection Agency

Inter-laboratory validation study of Androgen receptor stably transfected transcriptional activation (STTA) assay for new OECD test guideline. (アンドロゲン受容体転写活性化試験法 (STTA) の新たな OECD テストガイドライン化のための施設間バリデーション試験)

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8, プラハ, チェコ)

5. レギュラトリーサイエンス関連国際会議報告

報告事項なし

6. 新聞・テレビ等

報告事項なし